

(牧師室より)

[核兵器禁止条約]

NHKの朝ドラ「エール」で10月22日に「長崎の鐘」が遂に流れました。これは主人公の古関裕而の作曲になるものですね。ドラマでは古関が長崎に行って被爆して床に横たわっている永井隆を訪ねる場面が出て来ました。実際に会ってその苦しみ、悲しみにふれて曲想を深めたことが伺えます。その時永井が古関に「贖罪ですか」と問います。古関には軍歌を沢山作って多くの人々を戦場に送った罪責の思いが強く働いていたようです。罪を許されたい、こんな思いも歌にはこめられているのでしょうか。永井は『長崎の鐘』の中で記します。「世界大戦争という人類の罪悪の償いとして、日本唯一の聖地浦上が犠牲の祭壇に屠られ燃やさるべき潔き子羊として選ばれたのではないのでしょうか」。そして永井の思いとしては浦上を最後の犠牲の子羊としなければ、ということでしょう。10月24日核兵器禁止条約の批准国が条約発効に必要な50に達したとの事。発効は来年1月22日を待つことですが先ず嬉しいことです。日本もこれに加わる事が永井や古関の思いを生かすことになりそうです。